京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年

本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十五錢

月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）

廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人　高木久馬太

印刷人　杉久神一郎

發行所　京城西署西小門通（電話六六三）　京城新報社

退韓記（六）

朝鮮農生

樺山兄足下、從來朝鮮半島の統治なるものは、餘りに煩雜に失し居り候、幸ひにして今回寺內統監の英斷に依り是等の弊害も除却さるべく、小生は此の期の一日も速かならん事を希望いたすものに候、固より就任は追憶するも詮なき事ながら、前便申上候如く我國人の運動たる兎角物事に『献立』の大袈裟なるは半島統治の過去に於て遺憾なく之を立證致され居り候、例令ば地方制度の如き古來觀察使の下に郡守ありて行政、司法其他あらゆる權能を有し居たりしに反し、統監政治の施行後にありては、本國人及び半島人官吏の入交りにて殆んど人のために官職を設けしの嫌ひあり、故に觀察使及び郡守は其地位を維するのみにて、僅々猫額大の一郡中、郡衙あり、憲兵隊あり、警察官署あり、財務署あり、裁判所あり、是等は各自所屬所屬の命令により個々の行動を執るを以て職務の執行上同一地方に在り乍ら何等の連絡なく極めて不統一の狀態にありし（尤も憲兵隊は其後警察官と合同して頗ぶる好都合となれり）左ば因襲の久しき地方制と云はゞ何事も郡衙に於て取扱はるゝものと考へゐたる半島人は、俄かに此の御大層なる制度を見て殆んど其の適從する所を解せず、殊に近年施行せられし三稅及び地方費稅の如き財務官署と地方廳と兩方より取立つるを以て間々無智の半島人をして、母國政府は兩樣の名義を以て租稅の二重取りをなすものなりとの怨聲を放たしむ、由來地方に在る半島人は其頭腦極めて單純にして、地方費の如き自治制の代りに設くる制度なりと說くも、決して彼等は之を理解する能はず、故に彼等に對しては飽くまで單純なる制度を採り、其の解し易く納得し易き程度に於て之を定めざる可らず、此の點に於て少しく無理なる註文かは知れざるも、單一なる軍政の如きものを敷き、文武兼任の官吏に於て何事も處理する方、頗る便宜なるべしと信ず、這は彼等に對して恩威併び行ふ點より見ても、果た經費を節約する點より見るも甚た策の得たるものなる事を小生は確信仕候（未完）

滿洲大豆戰準備

サミユル商會は顧道臺の內職たりし長春農產公司と提携して輸出大豆の買付に失敗し遂に今春重大の損害を招たる末其代表者を遙々倫敦より北京に向しめ農產公司の違約に基く損害に關し賠償を要求し顧道臺も亦上京を命ぜられ取調の末一應の解決を告げたるも倒すサミユルの損傷輕からざりしと云へば如何に滿洲貿易に對する危懼の念歐洲商人の肝膽を寒からしめたるかを見るべし然れども三井サミユル等一流の巨商は滿洲土人の背信に因る取引上の缺陷に就ては飽くまでも責任を重んじ歐洲得意先に向つて損害を與へざりしも二流以下の輸出商中には信用を失墜せる向もあり旁本年の大豆商戰は少數なる一流商人の間に行はるべき模樣なりしに獨逸が滿洲大豆を工業原料と認め本年より無稅輸入を許すこととなれる結果獨逸漢堡の商人にして晩近大連に出張し今より輸出準備に忙しきもの少からず從つて本年の商戰も亦激烈なるべきを想はしむるに足ると共に南北滿洲の大豆作柄適順にして昨年の六百五十萬石に對し本年は八百萬石の收穫ならんとの豫想あり滿鐵にても來るべき商戰に應ずるの準備として數多の小屋を建造し海陸の連絡を改善して一日千五百噸の積込を容易ならしむるに至れり翻つて輸出商の態度を見るに前年の失敗に鑑み輕々しく先約を結ぶを避け專ら滿人問屋をして賤格に引渡を履行せしむるの方法に就き苦心中なるが今日までの所長春鐵嶺奉天遼陽の要所に出張所を設け廣く戰線を布けるは三井物產あるのみ

釜山魚市場水揚高

△最近五ヶ年比較

釜山水產株式會社附屬魚市場に於て去る明治三十八年より昨四十二年に至る五ヶ年間に賣上げたる金額及び手數料は左の如し

年次	賣上高	手數料
卅八年	三三九、一三七	一六、七三三
卅九年	三九〇、〇八五	二四、〇五一
四十年	五〇九、〇〇四	四五、三四三
四十一年	六五三、三一一	三六、九八三
四十二年	六二二、二九九	五四、二五二

因みに一昨年より昨年の減少せるは出漁者の減じたるに依る

●朝鮮產黑鉛の需要

米國に於ける朝鮮產の黑鉛需要に關し在紐育帝國總領事館の報告左の如し

▲黑鉛の用途　米國に於ける黑鉛の用途は溶鋼用坩堝の製造「ストーブ、ポリッシング」鉛筆、「ペイント」鑄鐵の各製造用とし又減磨用機械油に使用するなれば一般の需要鮮少ならず

▲品質及色澤　紐育市に來る朝鮮產の黑鉛は二三種に區別さるゝも其實は一種に屬して粉狀を呈し內に不規則の小塊を混せるあり特に粉狀品と區別せるものゝ中にも猶多量の細粉を包みて塊粒の大さも一定せず其色暗黑色を帶び微粉末の爲めに妨げられて總て天然の色澤を失し商品として誠に不体裁なるものなり其純分は平均八十パーセントにして最下等と雖五十パーセント內外最上等ものは八十五パーセントとなり而して其色澤の錫蘭品の如く帶光灰色ならざるは鑛區若くして未だ地表を掘り下げたると餘り深からざるに由らんか現に角少なくも五十呎以下に掘り下げされば錫蘭品に似たるものを得る能はず

▲需要額　米國に輸入する黑鉛は四十二年度の統計を見るに一万五千九百九十二噸にして此の價格百四十六萬三千七百十七弗なり

▲黑鉛の市價　紐育市に於ける一箇月の黑鉛の取引は一千噸內外にして錫蘭產は一噸百弗以上の高價を持するも朝鮮產は三十弗內外なるも若し品質を改良ならしめば五十弗以上を獲るを難からず

●八月中の京城商況

京城商業會議所調査に係る京城に於ける八月中の商況を見るに引續き沈靜にして家賃の如きも約一割內外の引下を爲したる向あり殊に同月に入り時局の進行を氣遣ひ各種の事業は中止或は手控の狀態にして官民とも購買力著しく減退し不況なりし市況は一層不振を見るに至れり其の月末に於ける韓國併合の發表は大に活氣を添へ人氣を一新するならんと豫想したりしが事實は之れに反し更に何等の活況を呈せず頗る平靜不振の狀態を持續せり然れども目下母國に於ける大小豆小麥等の如きは前月來引續き相應の出廻りありて望み手多く殊に牛皮にありては同月に入り京坂地方の品薄の結果一時に多額の需要を來せしのみならず就中二十斤廻はりの如きは稀闕向として從來輸出せしが是れ亦た該地に於ける需要增加の結果品薄を告げ盛んに輸出を見るに至り輸出市場は以外なる活氣を呈せり一方朝鮮側秋夕節期前に迫りたる事とて綿布綿糸其の他朝鮮物は弗々荷動あり就中砂糖麥酒洋物等は前月に比し約一割方賣行增加を示し其の他金物建築材料等弗々賣行あるも大口の需要少なく日本酒吳服類一般雜貨等に至りては前月に比し約一割方賣行減少の傾きあり要するに昨年の同期に比すれば各品共も賣行少なく何れも困難の有樣なり近く總督府官制發布の曉に於ては一般人の意向一定し母國よりの入京者も增加すべく一面米穀の出廻はり期節物等の賣行增加を見るに至り市況幾分の活氣を呈するに至らんと

俳句

漢陽吟社句集

花傳園主人選

朝凪や帆柱に來百舌鳥の鴨　牛韓
野嵐の氣遣はなし鴫の聲　鈍蝶
更るほど調子の高き砧かな　米水
月待つしばしやすらふ門の石　梅窓
月の出をまちて淺瀬を渡鳧　悟竹
笹の葉に風生れけり宵月夜　同
足音に打れさめたる砧かな　同
新蕎麥に暮忙かしき山家哉　同
音なへは琴の音歇ぬ月の家　好春子
萩路次の細道塞ぎけり　同

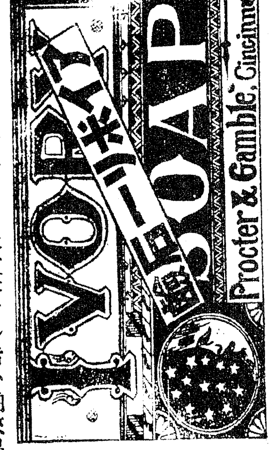
講談

大岡政談　越後傳吉

第七十三回　旭堂南陵講

幸ひ役人が來るやうにもないから與兵衛は聲を低めまして　與「ねエ旦那どん貴郎を處刑に上げて殺すには當番家老の印形を取らなきやアなりません郡奉行の手では迚ても〳〵殺せない、ですから旦那どん、これから強情を張て居たら前さん貴殺されて了ひます、二十日でも三十日でもれ前さんが牢內で樂をして居る間にこの中村屋がれ助け申しますから、宜うがすかい、白狀なさいましよ　傳「ハイ有難う存じます、分りました　與「分りましたか、忘れずに白狀するですよ、分りましたナ　傳「ハイ　與「ムヽ與兵衛が乾度れ助け申します、旦那どん、閻魔の與兵衛が呑込んで居りますから大丈夫で……」ところへパタ〳〵〳〵ッと駈て來た牢番の佐兵衛　佐「モシ宜しうございますか、大分長うございますから、この邊でれ別れを願ひます　與「大きに何うも濟みません……旦那どん、緩り話はして居たいが儘ならぬのはれ上のことだてれで別れ申します、くれ〳〵も今いつたことを忘れねへで　傳「ハイ有難うございます　與「たせん默つて泣て居て何うするんだ旦那どんに一言た別れを告げんか　仙「ハイ、叔父さん　與「何だね動かねへかね　與「動かねツて何うするんだ　仙「旦那どんのこの有樣を見て妾ア何だつて此處が動けるでせう、殺されるんなら旦那さんと一緒に死んでしまふ、覺れのねへ旦那どんをこんな身體にしたのも皆惡い役人、寧ろ殺すんなら、旦那と妾等とを殺してたくれ、殺されても妾ア能う動きません　與「エーイ何を吐かすんだ馬鹿なことをいふなサア〳〵早く旦那どんにれ別れを申して起んだ……何うしても起たない、馬鹿なことをいふなサア起てツ　仙「ハイ　與「耳をかせ耳を……れせんの耳の邊に口を寄せて、　與「ナア、分つたか、エ、　仙「ハイ、分りました叔父さん……とはいひながら旦那どんを一人で此薄暗い御牢內へ殘して置て行けますか　與「今に旦那どんは立派になつてれ歸りになるんだからサア行かう　仙「ハイ旦那どん……　傳「牢格子へ身體を寄せつけたれせん格子の間だから骸骨のやうな手を出した傳吉は　傳「オヽ……」といひながら、夫婦が手に手を取り合ひ熱と見合はす顏と顏　仙「妾等このまゝ殺されて死にたいわい……と傳吉の手を握つたまゝれせんはたゞ血の淚を流すとばかり、傳吉は窪んだ兩眼より潸然として落ちる淚、たゞ物をも能ういはないで口を顫はして居る、與兵衛も流石に閻魔といはれた男だが、二人の心を察して堪りかね思はず溜る兩眼の淚を拂ひながら　與「サアたせん、そんなことをして居りやア旦那どんの爲にならねへ……旦那どん今いつた通りです、宜がすか、平座つて居るれせんを無理やりに引起して與兵衛が牢屋敷を出ると、れせんはバッタリと倒れてしまひ、人の見る眼も恥かしいと思はず、牢屋敷の前をはまたもや容易に立たぬのを宥め賺して到頭自分の宅まで連歸り　與「たせん、汝がさう泣いたり喚いたりしちやア仕樣がねねおやアないか、亭主が災難を喰つてるんだ、確乎しろ　仙「ハイ……と答へたまゝ、堪りかねたかウーンとそのまゝ氣絕したから　與「サアた大變だ」と早速醫者を迎へいろ〳〵手當をしたので漸く氣は着ましたが、ドッと一時に熱が出て遂々病人となつてしまふた、何が毒だといつても心配ほど毒なものはない、與兵衛は　與「ア、斯んなことになるだらうと思つて居たんだ、れせん、確乎しな、宜いかい確乎しろ〳〵、たゞ一時に昇つた熱は何事もいはず、たゞ　仙「旦那どん、妾等も一緒にオッ死んでしまひます、庄左衛門どれはやの二人が旦那どんの敵だ、旦那どんの敵だ」と起ち上つて、ヨロ〳〵と蹌踉きながら戶外へ出やうとする　與「コレ〳〵何をするんだ」漸う與兵衛が抱き止めて寢かすもういふことが皆さういふ事ばかり、甚右衛門、三右衛門も心配していろ〳〵と看病する、何しろれ醫者さんといつてろの時分の醫者ですから高根湯ぐらゐしか調合しませんが、併し人望のある傳吉だから何うかしてれせんを快くしたいと手を盡した効があつたか藥分か快方には向ひますが、夫でも未だなか〳〵枕は上りません、ところが與兵衛の傳吉に逢つた日から一日隔て甚右衛門、三右衛門の方へ呼出狀が附きました。





東京電報

▲朝鮮憲兵條令發布 朝鮮駐剳憲兵條令を公布されしが京城に司令部を置き各憲兵隊管區に一憲兵隊を配置す(十二日)

▲京城府長官の決定 前臺灣民政長官大島久滿次氏は京城府長官に任せらるゝ事に決定せり(同上)

▲總督府官制の審議 桂首相は昨十二日閣議後更に安廣法制局長官柴田内閣書記官長江木拓殖局第一部長等を總理大臣官邸に召集し石塚參與官列席し總督府官制地方官々制案其の他重要事項に就き長時間に亘り審議する所ありたり(十三日)

▲議會と朝鮮立法 朝鮮に於ける諸般の立法は總督に委任するを以て臺灣と同じく帝國議會の協贊なく制定し得るは議會の權能を侵害するのみならず新領土の治績上大影響ある問題なれば國民黨にては本期議會に十分調査を遂げ意見を發表する筈なるが貴族院側にも殆ど同一の意見を有する者あり政友會一部にも既に臺灣の六三問題を批難し居る今日又々朝鮮總督府に其の立法を委任するは我黨の面目を損すと敎囹き居るものあり現に角本期議會の一問題たるべし(同上)

▲談話會の宣言書 貴族院談話會にては選擧に付紛擾中なりしが今回詔勅の御旨趣を奉戴し君國の爲め努力するの意を示し宣言書を公表したり(同上)

▲二百廿日無事經過 昨二百二十日の天候は九州四國本州北海道臺灣を通じて平穩に經過せり尙ほ中央氣象臺の觀測に依れば今十三日も無事なるべし(同上)

▲女學校令の改正 高等女學校令改正並に敎員試補に關する件は文部省より法典局に送付中の處審査終了したれば樞密院に諮詢の上勅令を以て之が發表を見るべし(同)

▲各兵科操典脫稿 敎育總監部に於て目下編纂中の陸軍騎兵野砲兵輜重兵の各操典は略ぼ脫稿したれば十二月新兵入營期には新操典となりて教育せらるべし(同上)

▲上旬の外國貿易 九月上旬の外國貿易額は輸出一千二百四万二千圓輸入九百八十五萬三千圓にして二百十八萬九千圓の輸出超過を示せり

▲四師團長の着任 新任淺田第四師團長は夫人同伴にて大阪に着任師團司令部に入り各將校の伺候式ありたり(同上)

北京電報

▲駐清公使の警告 清國新聞紙は嚮きに日露協約締結に際し盛んに反對の意見を主張したるが今回の韓國併合に就ても更に激烈なる論評を試み排日の煽動を爲しつゝあり然るに清國政府は之れに對し態度稍々平靜を缺くの嫌あるにより我が伊集院公使は清國政府に對し斯かる態度は日清兩國の親善を害する事大なるを以て清國政府は相當の取締りありたき旨警告したり(十三日)

特報

恩賜公債規程内容 十三日の總督府官報にて公表せる恩賜公債規程の内容は同公債の證劵は無記號の五分利公債證書にして元金は發行の年より五ヶ年据置き其翌年より向五十ヶ年以内に償還すると而して初期の利子は恩賜詔令審の日附の屬する月より之を附し元金償還のときは其の償還の月迄之を附す尚本公債の利子は毎年三月及び九月に於て仕拂ふ可きこと而して仕拂機關は日本銀行及び其の代理店、朝鮮總督の特に指定したる郵便局所にして又同公債の登錄變更、登錄除却賣權に關する登錄の請求は總て朝鮮總督の認可書を添付す可きも相續に因る登錄は此の限りにあらず要するに本公債の權利の移轉に關する登錄の變更は一に總督の認可を受く可きものとす

一大懇親會の計劃(兩商業會議所の發起)

京城商業會議所及朝鮮人側商業會議所發起となり日韓併合の成立を祝せん爲め一大懇親會開催の議ありしが十二日の會合に於て略々決定せり而して會期は寺内統監東上以前に於て行はん筈にて近々其準備委員を撰定し萬般の設備を爲すべき筈なりと云ふ

●前韓國の遺留事業

前韓國政府が企劃せる繼續事業にして尚ほ未だ竣功に到らず其儘帝國政府に於て經營さるべきものは多々ありて存するが其内四十四年度以降の支出に屬するものを見るに實に左の如し

	圓
四十四年度	九三三、七六〇、〇〇〇
四十五年度	三九〇、〇〇〇、〇〇〇
四十六年度	二一〇、〇〇〇、〇〇〇
四十七年度	三〇、〇〇〇、〇〇〇
計	一五、六三、七六〇、〇〇〇

更に之を事業別に揭載すれば治道總額費二百四十九萬六千圓▲殘四十四年度分十九萬四千圓四十五年度十萬圓海關工事費總額六百六十万三百七十三圓の殘四十四年度二十六万八千三百九十四圓四十五年度二十五萬圓四十六年度十七萬圓釜山水道出資費三十五萬の殘四十四年度四萬圓四十五年度四萬圓四十六年度四萬圓四十七年度三萬圓附港設備調査費一萬六千圓の内四十四年度六千圓塩田築造費總額百十六萬圓の殘四十四年度四十二万五千三百六十六圓なりとす而して此以外に於て現に施行中のもの數件あるが是等は本年度を以て完結すべきものなり則ち以上の繼續事業は孰れも必要急須の事業として企劃せられたるものに屬するを以て縱令爲政の根本を異にする今日と雖も之を改廢して百仞の功を一簣に缺ぐが如き事なかるべしと云へり

●宣敎師大會の議事

朝鮮に於ける外國宣敎師牧師及敎會關係者二百餘名(天主敎を除く)は十二日より鐘路青年會館に會同し宣敎師大會を開けるが同會は尚は今後數日間引續き開會する由なるが同會議を秘密會議として朝鮮人牧師さへ一名を參席せしめざる由今重なる題を聞くに左の如し

一、布敎方針統一に關する件
一、日韓合併後信徒減少の理由
一、傳道費の豫算決算に關する件
一、各敎會の成績即ち洗禮を受けたる信者並に一般信徒の增減
一、敎會學校の成績に關する件
一、敎會學校の敎育方針に關する件(敎科書の選定等を含む)
一、聖書頒布方法並に聖書飜譯に關する件

右會議の結果報告書を作製して本部に報ずべしと

●免許漁業出願概況

漁業法施行以來免許漁業の出願件數は約千余件に達し當局に於ては鋭意整理中なるが既に處分の決了したるもの百五十余件にして殘りの三分の一は實地調查も終り近々處分さるべく尙殘餘の三分の二は今後更に實地調査すべき筈なりと云ふ

●朝鮮在留の清國人

最近の調査に係る朝鮮在留の清國人總數は合計一萬一千五百三十三人にして之を内譯すれば官吏六十八人商業三千七百五十二人工業三百三十五人農業九百八十九人其他は勞働者及雜業者にして此内京城在留は千七百五十二人なり

●參與官會議の例會

十二日午前十時より統監府に於て定例參與官會議を開き寺内統監、有吉總務長官、木内、倉富、俵、小松、國分各參與官、大屋、池田兩局長及び明石警務總長の諸氏出席したり

●座礁英艦遂に破壞

濟州島附近に坐礁したる英國軍艦ベドフォード號は其後風波のために船底の中部毀裂し甲板僅かに露出し居れるのみにて全く引揚げの見込みなしと云ふ

●新官制と地方長官

新官制の地方長官は道府共に長官と稱し而して候補者は疾に内定し夫れ〲交涉を了はり官制發布と共に直ちに任命せらるべきまでに運び居れりと

●各結社の殘務整理

解散後の各結社は尙ほ殘務整理を要するものある爲め大小により二日乃至十日以内に一切結了せしむべく猶豫を與へられたりと其内最も困難を感ずるは朝鮮協會なりと云ふ

●米人の水害義捐 在京城米國人醫師ダブリユ、ビースクラレートン氏は日本内地水害義捐金として金五十圓を寄贈したりと云ふ

●光井中佐の東上 兵器支廠長光井砲兵中佐は兵器會議の爲め兵器本廠へ向け去る十一日午後出發東上したり

●山下少佐の東上 龍山滯在中の永興灣要塞司令官山下彌太郎氏は兵器會議の爲兵器本廠へ向け十二日朝東上す

●獨逸記者の出發 獨逸キヨルン通信社員チツトマル氏は十三日午前九時十五分南大門發北行列車にて安東縣行

●南大門驛乘降客 十二日の分如左
乘車客 五六二　下車客 五八八
乘車賃金 一〇〇七、四五

●南大門荷物扱高 十二日の分如左
發送 六一噸　到着 三八八噸
發送賃金 一二七〇、二〇

●龍山驛の乘降客 十二日の分如左
乘車客 一九八　下車客 二〇一
乘車賃金 二〇一、九八

●龍山驛荷物扱高 十二日の分如左
發送 一八噸　到着 一一一噸
發送賃金 四七、四〇

合併後の産業振興策(三)

韓國銀行理事 三島太郎君談

産業振興策といふは却々範圍の廣い問題だが今の朝鮮には之れに施すべき特殊の方法は有るまい。又決して他奇を容るべき性質のものでも無いと思ふ、マッで私の意見も至極平凡であるが、信ずるまゝを御話しやう。私の見る處では民力の發達した國では政府が放任主義の産業政策を取るも宜しい、併し朝鮮に於ては最も早き産業發達を遂げしむるには政府の保護の下に官民共同して業を興すべきである、夫れで私の意見は方策としては韓國併合の前後に依て何の變りが無いが、唯併合後に於ける政府の方針が若し世間に行はるゝ風說の如く公債を起すなどいふことであらば金融上劇變を來たすは云ふ迄も無い、而かも其結果の良否は今俄かに判斷することは出來ない、故に斯る特殊の事情は姑らく措き、最も一般的且永久的なる必要事項は交通機關の整備に在るのだ、生産地と鐵道停車場とを結びつくる道路の開鑿などは第一に爲さるべきことだ、第二には警察力の普及、第三は内地より資本を引くことだ、サテ資本を輸入するには現に朝鮮に在る内地人の力に俟たねばならぬ、從來内地には朝鮮の事情が能く知れて居らぬ、偶々視察などに來る人はあれども一向迂遠である、爲めに朝鮮に放資するものが少なかつた、然れども日韓併合は多少の安心を内地の資本家に與ふることゝなり、資本の輸入にも幾許の便宜があるであらう、政府も亦確實なる資本家に相當の保護を加へ便宜を與ふるを要する、例すれば鑛山の所在地には警察を置き或は必要なる道路を開鑿するなどは是非政府の力を致さねばならぬことだ、尙一つ力むべきことは叙上の事情の下に朝鮮に流れ込みたる資本を折返へして吐出さしめざることだ、即ち入手したる資本を二回使はしむることだ、貯金を奬勵するか、或は小額の割增附債劵を發行するも可からう、殊に朝鮮人は射倖心强きを以て割增付債劵の發行は最も良法かも知れぬ、斯くすれば通貨の膨脹を來たす憂も無く、資本を二回使はしむることを得るのである、於此て資本は豐かに成り、厭でも生産事業を誘起し振興することに成るのである。關稅は朝鮮の産業狀態が今少しく日本の夫れに接近するを待ちて協定稅率を定むも可、保護策を取るも可、先づ暫くは現狀維持の外なからん云々。

農工銀行株に付(某當局者の談)

農工銀行は素と朝鮮人保護の爲に設立せられたるものなるを以て内地人には現在は勿論將來に於ても同行の株劵を所有せしめざるべしと報導するものあるも某當局者の言に因れば現在に於ても同行株主の半數は事實内地人にして之等内地人は朝鮮人の名義を以て株主となり居る次第なれば假令創立の際は朝鮮人保護の目的を以て設立せられたるにもせよ事情一變したる今日に於ては内地人を株主とせずとの度支部從來の手加減は到底改めさる譯には行かざるべしとの事なり

東拓會社と漁業

東洋拓殖會社が本年度の西海沿岸漁業に於て失敗したるは既報の如くなるが右に付最近に於て某消息通の語るところに因れば來年度に於ては會社は單に漁場權利者として漁場を各漁業者に貸渡す丈に止め萬般の經營は一切他に任かせて會社自身は何等關係を有せざることゝなすべしと云ふ

●鴨江水路設備擴張

近く同方面を視察されたる鈴木司稅局長の談に據れば鴨綠江口より安東縣に溯る四十餘理の水路は流域極て峻險にして灘瀨の變異日夜定まらず目下同水路案内者としては日露役後より引續き從事せる豫備將校三浦某氏あれども安奉線の改築より施て新義州を開放せり今後は同流域の水運は益發展すべく就ては今に於て同水路に對し航路標識の擴張は極て必要の事なれば當局に於ても詮議の上相當手續に及ぶべき筈なり云々

●韓銀貨幣發行週報(自九月四日至九月十日)

銀行劵總發行平均高	一四、二九九、一四三、〇〇〇
内正貨準備發行平均高	五、五三七、三五七、〇〇〇
保證準備發行平均高	八、七六一、七八六、〇〇〇
硬貨發行高(九月十日現在)	六、六八五、二七一、二〇〇
内金貨二十圓	一、八五〇、〇〇〇、〇〇〇
同 十圓	五〇、〇〇〇、〇〇〇
同 五圓	五〇、〇〇〇、〇〇〇
銀貨五十錢	九〇三、〇〇〇、〇〇〇
同 二十錢	一、六一五、〇〇〇、〇〇〇
同 十錢	一、三二一、三二一、二〇〇
白銅貨五錢	五五九、七五〇、〇〇〇
青銅貨一錢	二八〇、〇二五、〇〇〇
同 五厘	九七、一七五、〇〇〇

●全北の農事講習會

全羅北道全州種苗場に於て來る十月一日より十六日迄農事講習會を開催し同道の勸業委員百四十七名の内各地方より二名宛撰拔し講習生となし科目は普通、特用、園藝作物栽培法、牛豚鷄飼養法、養蠶法及桑樹栽培法、土壤及肥料論、山林保護論、農家の副業、農政及農業經濟論等なり

●朝鮮觀光團の消息

山陽線田布施驛より朝鮮觀光團約五十名渡來の報鐵道管理局に達したり主催者は田内擬藏氏にして九月二十一日釜山着南大門、仁川、水原、大田、金泉、大邱、馬山等を巡遊して二十九日釜山發歸國の豫定なりと

●安東縣今後の發展

一時悲觀の聲高かりし安東縣も安奉線改築に伴ひ俄に景氣付き曾て軒を接せし空家も悉く塡かり尙ほ新渡來者は續々として踵を絶たざる姿にて此分にて進まば今後の發展は想像に餘ありと

●大久保少將の歸龍

大久保少將は測圖を終り十三日歸龍同夜軍司令官々邸に於て木村大佐土屋大佐と共に晩餐會に望めり

大同江の水運(下)(關稅局木下技師調查)

蓋し水路の利用は運輸上の經濟にして沿岸の發展と同時に旅客の往復頻繁を來すべきは自然の數なれば現今旅客の交通機關として秋田商會の經營に係る定期郵便船あり淺喫水約百噸及四十噸の汽船二隻を以て之に充て平壤鎭南浦間は隔日航兼二浦鎭南浦間は毎日航にして平南航路は收支殆んど償はざるものゝ如し又貨物輸送機關としては隨時帆船に依るの外変に舉げて言ふべきものなし平壤に於ける對岸との交通機關は朝鮮形川船に依り渡船場三箇所あり其上なるものを大同門渡しと云ひ次を中の渡し最下のものを船橋里渡しと稱す渡航者頗る頻繁にして船橋里渡しの如きは殊に國遑に當るを以て往來織るが如く一回多きは三十人少なきも十四五人の乘船者ありて一時間に一往復を爲し一人の渡船賃二錢五厘を徴すと云ふ如斯盛況に在るを以て見れば將來は小形發動機船を使用するも尚經濟を維持するに難からざるべく而かも民衆の利便は之に依りて頗る大なるものあらん前途の平南及鎭南間定期航船其他同方面の回漕に從事せる海運業者は平南鐵道の開通後に於て一大打擊を蒙るべきを豫想し頗る恐慌の狀態にあるも將來平壤炭山及戴寧、安岳並に殷栗等の諸鑛山は年々其採掘量を增加し廣梁灣に於ける天日製鹽の事業は近く完成せんとするに際し一面漁業の發展に伴ひ夢金浦を漁村經營地とするの計畫あるを開知せる今日必ずしも平南鐵道の開通を以て直ちに大同江に於ける水運の將來を悲觀すべきものに非ずと思考す加之大同江一帶沿岸の開發は此自然の水利に依るの外他に途なきを思へば必要に應じ相當保護を加ふるも尚且つ其航運を助成せしむべきものたるを信ぜんとす(完)

附記兼二浦の上流なる小海鴨山の南麓及對岸沙月里附近に温泉湧出地あるは由にて沿岸開發の一助として温泉場の設備を爲せば風光明媚の境域に在るを以て平壤鎭南浦等よりの浴客を吸收することが得べく蓋し將來有望の施設たることを失はざるべし

公人私人

▲前田榮一(馬山浦民長) 十二日入京巴城館
▲北尾榮太郎(石川縣農業會社取締役) 十二日太田より入京山本へ
▲水谷千萬吉(平壤鑛業所次長) 十二日入京浦尾旅館投宿
▲草生政恒(步兵少佐) 十二日釜山行
▲關太郎(大阪每日記者) 十二日平壤行

▲京城手形交換高▼

九月	金高	枚數
十三日	一七七、八〇九、八三	八六四

▲仁川米豆取引所▼

▲前場(十三日) 十月限一節九圓四十八錢四十八錢四十八錢▲出來高八百石▲十一月限一節八圓六十五錢六錢七錢八錢九錢八錢六錢五錢六錢▲二節六十六錢七錢六錢五錢▲三節六十五錢七十錢二錢六十八錢六錢八錢七錢七錢▲出來高五千七百石

▲大阪期米電報▼

▲前場(十三日) 九月限寄十四圓▲十月限寄三十四錢▲十一月限寄卅八錢

▲大阪期米電報▼

▲前場 九月止十四圓十錢▲十月止[illegible]
▲後場(十三日) 九月限寄十四圓十四錢止[illegible]▲十月限寄十四圓四錢止出來不申▲十一月限寄[illegible]三十七錢▲十一月限四十五錢止四十[illegible]

▲仁川米豆取引所▼

▲後場(十三日) 十一月限一節八圓六[illegible]八錢七錢[illegible]四錢三錢▲三節六十二錢三錢二錢一錢二錢▲出來高三千三百石

●内地人の農會出品

内地人の來廿八日開催さるべき園藝品評會出品は佐々正之氏の蔬菜三種、高橋章之助氏の馬鈴薯、ツクネ薯、長薯、生[illegible]數十種、白菜、藥用人參の種子等なるが[illegible]申込期出の者なりと

▲仁川港の出入船舶▼

▲大有丸 十四日大坂より神戸を經て入港
▲神代丸 十四日午後四時神戸大坂へ向け出港

▲治外法權▼

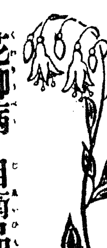
昨本紙の社說にも書いた通り日本人と日本帝國の臣民とには自ら區別がある、大体に於て日本人の全部は帝國の臣民であるが、さりとて臣民の全部が日本人と云ふ譯ではないのである▲地球の表面に於ける現在の日本人は素々色々な人種の混血したもので其數五千萬、過去二千六百年間に互つて日本島に住し、境遇の淘汰と淘冶とを受けて今日に到つたものであるのである▲久しき間日本帝國が膨脹せざりしため帝國の臣民は日本人許りで組成されてあつた、從つて帝國の臣民は日本人なりとの觀念が自然に養成された▲近年に到つて臺灣と樺太とが帝國の領土となつた、サテ問題となつたのが臺灣や樺太の土人が日本人となつたがドウかと云ふ事であつた、ナル程久しき間日本人許りで組成して居た帝國へ新附の民が出來たのだから疑問が起るのも當然の事であつた、併し學者の眼から見れば問題は極めて單純であつた▲新附の民は素より帝國の臣民たるに於いて相違はない、併し人種、言語、風俗、習慣等の異なれる彼等は決して日本人と稱さるべきものでないと云ふ事に一決された▲朝鮮人が帝國臣民たることはアイルランド人がブリテン王國の臣民たるとフインランド人がロシヤ帝國の臣民たると同じ事だアイルランド人は英人にあらず、フインランド人はロシヤ人にあらず、朝鮮人また日本人にあらずだ▲記者が本問題に就いてクドクドクド敍云ふのは内地人と朝鮮人との間に誤解を起さゝらしめんが爲だ、ソウして互に仲好くするには互の身柄をよく承知し居ることが必要だと思ふからだ▲石塚參與官東上の途次大阪朝日記者に語る、曰く朝鮮の刺客は警戒を解く頃に出るものだと、刺客談は此際何人にも止めて貰ひたいものだ▲本町筋の地面が一坪百五十圓だと聞いて新來の内地人は驚いて居るソウだ、併し米國シカゴ市目貫の場所の十坪三千六百万圓に較べたら坪百五十圓はマルで最劣等荒蕪地の値段だ▲未來の總督府は景福宮内へ建てらるるとの噂がある、ソレかあらぬか光化門通りの地價が此頃大分アガツた▲本町筋が坪百五十圓だと云つて威張つて居るが今の樣な幅狹な街では今の繁華は到底永く續かぬ、町民諸氏奮發して大々的に街路を取擴げべしだ。

▲大阪期米電報▼
▲前場（十三日）九月止十四圓十錢▲十月止[illegible]▲後場（十三日）九月限寄十四圓十四錢止出來不申▲十月限寄十四圓四十四錢止四十[illegible]▲十一月限四十五錢止四十三十七錢[illegible]

▲仁川米豆取引所▼
▲後場（十三日）十一月限一節八圓六十八錢七錢入寄七錢▲二節六十五錢四錢三錢▲三節六十二錢三錢二錢一錢二錢▲出來高三千三百石

●内地人の農會出品
内地人の來廿八日開催さるべき農會品評會出品は佐々正之氏の麥三種、高橋章之助氏の馬鈴薯、ツクネ薯、長薯、生姜、一寸豆、其他種子、齋藤嘉與次氏の農具數十種、白菜、藥用人參の種子等なるが倚申込續出の姿なりと

花柳病と自衛品



▽避姙法にも應用さる
▽勿驚一ヶ年に三千圓

姦賊が夜の暗く且つ人の寢靜まりし頃を窺ふのは自衛の必要からである、[illegible]家の御法度である不義を行ふ小間使や女中が汁粉屋や溫飩屋の二階に密語するのも自衛上の必要から案出された名案である、公娼に戯るゝものは公娼其のものゝ自衛上所謂檢査なるものを受けつゝあることを知るが故に安心して深く自衛の法を講じて居ない樣だが其の私娼に戯るゝものに至つては之れに行はるゝ檢査なるものがあるにしても甚だ不安心なるを知るものから深く自ら戒むるものゝ相である、其の結果として種々なる自衛品の發明となり應用となる、其の自衛品の尤なるものをルーデサツクと云ふ、而して此れの消費額の多寡は明かに其の國の文野をトするに足るとしてあるとか、即ち文明の度の高きに伴ふて國民の衛生思想は進步して居るから何うしても消費額が多いと云ふ結論に到達する順序だ、花柳病自衛品の引合に出される文明の爲めには誠に偽ましき限りであるけれども事實とあつては文明閣下も多少の屈辱は耐忍なさらずばなるまい、其所でこの男女老幼取交せ內地人五萬口を有する京城に此の自衛品が何の位輸入されつゝあるかと云ふ事を調べたなら在住內地人の衛生思想──文明の程度を知ることが出來るだらうと早速乍ら調査した結果が、最近一ヶ年間に仁川及び京城の稅關を通つて完全且つ公然と當地に入る分が勿驚五千ダースとある、之れを個數に換算すると六萬個である、更らに之れを男女老幼を問はず、一ヶ年一人宛にすると一個五分の一、此價格一個五錢として總額三千圓となるのである、花柳病防止の爲め敢て警察官署の論達若しくは命令に基かず自ら進んで之れに三千金を投ずる我內地人は確かに此の點に於て文明國人である、更らに之れに加ふるに時々刻々渡來しつゝある各人各個の手小荷物若しくは小包便等に依りて他品と混じて潜入しつゝある數を加へたならば恐らくは莫大の數に上ることであらう、兎に角其の根本の善惡は別として世に私娼なるもの否花柳病なるものが存在する以上、而して傳染の機會と危險とが到底完全に除き得られざるものなる以上は此れも餘儀ない始末であらうが、茲に注意を請ふのはモウ此れで安心と其の濫用をせぬ樣にされたいと云ふことと之れを必要なき避姙の爲めに惡用せられざることとである。

養女を情夫に逡はる

▽蚯蜂取らずの養父殿

門司市內堀川町一丁目三千百二番地上田昊なる者の養女わき（十八）と云ふは幼少の時より淨瑠璃三味線等を仕込まれしものにて十人並以上の美人なれば上田は大に喜び居る內本年三月突然無斷家出して行衞不明となりしより大切なる米櫃娘に逃げられて堪るものかと諸所を尋ねる內同町一丁目卯商松村政太郎方の雇人鈴木知之助（二十）と市內本町竹野まさ（五十）柿木龜吉女房たね（四十）の三名共謀の上東京吉原に賣飛したりとの風評を聞きしより直ちに小倉地方裁判所檢事局に同人等を告訴せしに先頃わきより朝鮮から音信ありしに驚き當地南部署に保護願を提出せり

然るに一方養女わきと鈴木知之助とは昨年十一月頃わきが病氣の爲め同市內本町四丁目山內秀夫方より通院治療中竹野まさ柿木たね二人の媒介に因り深き關係を結び居る內養父上田はわきを何處かへ賣飛す計畫中なりとの噂を聞きたわきは若しさる時は戀しい鈴木と夫婦になる事能はぬと駈け落ち旅費調達に苦心中主人松村政太郎が金六百圓を銀行に拂込を鈴木に命じたるにぞ此の金を拐帶してわきと共に東京に至り三月程を遊び暮した後朝鮮に渡來し仁川猫島松野貞次郎宅に厄介になりわきは家事を手傳ひ鈴木は日雇稼ぎと互に働き居る內世話する人ありてわきは前借五十圓にて京城旭町一丁目料理店一二三亭の藝妓に住み込み鈴木は該五十圓を資本として竹添町三丁目一番の一松月清太郎方にて乾饂飩製造に從事しつゝありき然るに豫て同人等の所在捜査に從事しつゝある村上刑事は兩人が前記の箇所に居住する事を探知し引致取調べしに鈴木は東京市深川生れにて松村政太郎とは兄弟の間柄にてわきは伊豫國生れにして四才の折り父に死に訣れ九才の折り上田に養女として貰はれしが養父に虐待され遊廓に賣飛されんとしたる爲め情夫鈴木と駈落ちしたる者にて決して誘拐されしにあらざる旨申立たるより双方共放還されたりと

權利義務の衝突

▽氣の強いたさださん

米倉町二十二番戸西本武城內縁の妻岡山縣人松並さだ（三三）は郷里岡山市仁王町に六十有餘の老母を有し扶養の義務ある者なるが母たみ（六〇）より今般南部署に說諭願提起に對し辨明書を提出したるが今双方を對照せんに母たみより藝妓稼ぎをして扶養料を給與すと出郷以來一時大邱にて藝妓稼ぎを爲し間もなく京城に移り西本武城と內縁を結びし以來一向扶養料を給與せぬ爲め八ケ間敷申越したるに幾何かの旅費を送り朝鮮に來れば安樂に暮させると書狀來りし爲めに家財を賣却し本年四月渡來せしに西本は勿論貞迄渡來後間もなきに嫌やな顏して虐待するより憤慨して旅費を調金せしめ再び郷里へ歸省したる後は扶養料も支給せぬ斗りか音信もせぬと申立てさだは南部署の說諭に對し母の不法を述べ毎月十圓宛送金して本年四月當地へ渡來して貰ひ同棲する方親子安全なれば夫に心配乍ら嘆願せしに夫も心よく承諾して多額の金員を送り呼びたるに我が儘許り主張して遂に歸省すと稱し旅費金十五圓を與へ歸したるなれば母の主張が無理なれば民法上家族は戶主の意に從ひ戶主が定めたる場所に居住するが當然なるに自己の自由に退京したるなれば當地に來れば扶養せんも然らずは義務なきものなりと主張せり理窟は聞ふだが感心致されぬ

石炭陸揚の妨害

▽瓦斯會社と龍山地元人夫

十二日午前十一時日韓瓦斯會社元町發電所に於て使用すべき石炭陸揚の爲め地元仲仕を使はんとしたるに一屯に付き三十錢を呉れとの事にて値段の折合付かざるより會社は秋田商會と二十三錢の契約を結び同商會にては仁川人夫を使用したる所地元仲仕は騷ぎ立ち暴言を吐き陸揚を妨害するにぞ會社より保護願出たるより龍山署は主唱者五名を引致し訓戒を加へ目下警戒中

清國娼妓の自由廢業

▽芝罘から仁川へ

清國芝罘太平街廣東張方抱娼妓アルボー（十九）は十四の時今の主人に五ケ年五百圓の約束にて買れ勤め居たるに近來の不景氣にて遊客も少なく從て收金もなき處より主人の態度初めの頃とは打て變り何にかに付け虐待さるゝを恨めしく思ひ居る折柄或日奉天東門外の者にて鳳明（三三）と云ふ客が登樓し種々なる話の末同人が仁川へ行くと言ふを幸に昨日入港の日高丸にて逃走し共に仁川へ着きたるがアルボーの語る處に依れば五ケ年間無事に勤めたるも主人は約束を履行せざるのみならず千圓を出金せざれば自由を許さずと云ひ張り全然無期限にて此の先きも勤めを爲さしむる意思を看破し最早逃走するより外に途なしと覺悟したるなりと云へり又鳳明は芝罘よりの滊船賃を仕拂たるも萬一を思慮して婦人の銀腕環を船中にて賃金の代償として受取りながら自分の所持品と申し立たるも遂に包み切れず婦人の物なる事を自白せしに付き懇々說諭の上放還し婦人は尚取調中

●拘留　龍山元町三丁目壽亭事山崎吉之助同櫻町藤の家事藤井善次郎は淫賣媒合容止の廉に依りて違警罪即決處分拘留五日藤の家方藤井ヲシは密淫賣に依り拘留四日に處せられたり

目と耳

▲壽座　今樣能樂十四日の番組如左　鶴龜（森岡義三、水野金雄、大高一郎、石田熊吉、瀨尾平也、守田信光）羽衣（泉薫、森岡義三、大高一郎、石田熊吉、瀨尾平也、守田信光）安宅瀧流し（泉房、森岡義三、大高一郎、瀨尾平也、守田信光、）土蜘千筋の糸（泉祐三郎、森岡義三、大高一郎、石田熊吉、瀨尾平也、守田信光、）蚊角力（清水梅雄　佐渡狐（泉祐三郎）業平餅（泉祐三郎）不見不聞（泉祐三郎）附祝言

▲浪花館　金馬一座十四日代番組　釜盜（金平）ゆび寫し槍獅子の曲（金遊齋）常盤津乘合船（小つま）鼻がホンイ（市馬）日高川（金勝）音曲手たどり（金登喜）人情噺前夜の續き（花遊）曲藝火婚撥（龜治郎）尺八曲（花堂）ふみ違い（金馬）（大切新作喜劇我れ忘れ

▲平民文庫▼

▲中の新地の酌婦は向ふ一二ヶ月中に娼妓として願出でなければならぬ其所で困つたことには娼妓としては親も承諾せざるべく原籍地警察官署の身元調べに依りて許可せられざるもあるべければ此所に大部不用婦人が出來る譯だ

妻君の無い方は今の內二三十圓を用意して置きなさい（探訪生）▲金子さん貴君の爲めに苦んで居る女が浮山居る私も其の一人です早く私の金を返して下さい母が病氣で國へ歸らねばならぬから返して下さらねば貴君の女だまし術を素破抜きますよ（はつ）▲眞實に行つつけ玉へ、とは云ふもの丶一遍は好かつたこともあるのでしようから我慢もせずばなるまいが（小僧）▲當京城に於て文法的に漢學を敎授し下さる方の所在を敎へて下さい（初學者）▲釜山では取引所を一日も早く設立するの要ありとなし近日中に運動員として大池氏外三名上京し統監の扉を叩くとの事だ京城取引所設立發起者たるもの宜しく奮起せよ（チチ生）▲貸家　旭町二丁目開進亭向ひ日本建平家玄關付き三、四疊、六、三、八疊廊下下離座敷六疊溫突二間別に茶室一湯殿炊事便所水道電氣付庭園あり官吏向家賃一ケ月金六十圓（米倉町三好和商店）▲オイチニの藥行商人の杉岡とか云ふ男は同職の柏木と云ふ男に女房を占領せられたとかの話である（同業者）▲太平町の二葉が非常手段を以て遊客の懷を絞ると云ふことは豫て聞て居つたが其の絞り方の中最も振つた奴を聞いたから一寸書いて見る▲八九日以前のこと北米倉町に住む何某と旭町邊に住む何某と云ふ此の道に掛けての剛の者二人意馬を必猿に曳かせて二葉へフラフラと登樓に及んで一圓宛の飮食費一寸が一圓宛と極めて借イザと云ふ一段となつた▲然るに其の連中が帶を緩めたなと見て取つた仲居はグルリ居直つて一人宛二圓でなければ一寸も不可ませんと來た▲斯る場合にも算盤玉を放れない御兩人夫れは不埒だ、されば見合はせるから金を返せと居直つた▲スルト仲居は一旦帳場へ下した金は尻しする理由には參らぬと來た▲夫れはれ前の方の都合で此方の知つたことでないと行り返しても頑として應せぬ▲結局次回まで前記二圓は預けて置く、ハイ預りましたで要領を得ずに引き下つた▲と丈けなら善いものを二圓に未練を持つた連中日を更めて登樓して前回の預金所分案を出した▲仲居の曰く彼はれ茶代に頂いたのよと空嘯て鼻を附たとサ（風聞子）

守日の運勢

九月十四日舊八月十日六白大安壬午納△一白不動産上の事に忌む其他效果なる日なり△二黑貸借婚談見合せの事他は擬病衛生に留意會心の日なり△三碧し新事旅行見合せの事△四綠間違ひ易き日婚談賣買貸借尤も注意すべし△五黃●新事見合せ遺失防ぐべし△五黃●婚談相談連盟に吉家族の事累あり△六白●勝負提言安言に運り易き日なり新事旅行見合せの事△七赤●證券及び計算精算の事故障あり新事旅行見合せの事△八白●起業開店移轉旅行に吉不動產の事及婚談に忌む△九紫●恩を施し仇を作る事あり盜難遺失防ぐべし新事見合せの事（本町五丁目三一館判斷）

●天氣豫報（自十三日午後六時至十四日午後六時）
北西風晴溫度降る
十二日（華氏）最高溫度七二、三　最低溫度五九、四

身體の丈夫は一生の德
弱き御婦人は中將湯を召上れ
子宮病 血の道 産前産後良藥
本舗 東京 津村順天堂
代理店 京城 新井藥房

養鷄指針
寫眞版美術木版八十七圖入大本 一冊 廿五錢 郵税十錢 料共
最新養鷄術は悉皆此書中に有
大阪南區生野國分 國益養鷄園 振替貯金大阪四七三番

移轉廣告
從來壽町二丁目に於て開業候處院務擴張の爲め狹隘に付左記の場所に移轉す
内外科、小兒科、産婦人科、黴毒（入院隨意）
其他一般患者の診療に應ず
永樂町二丁目特許局前
池上醫院 電話一二七一番
醫學得業士 池上要吉

會席料理 大勉強
京城永樂町三丁目
酒道樂 電話一二七六番

古着、古道具、諸雜貨、疊建具 賣買處
京城永樂町二丁目
五十號賣所 電話一四〇七番

瀛船出港廣告
月串、甕洞、海州行
瀛船 天草丸 安來丸 成歡丸 隔日出港
仁川港海岸通 柴田回漕店（電話四一九）

芙江公州間出帆廣告
芙江發 每日後一時（京城方面ヨリ急行接續）
公州發 每日前七時（京城方面行急行接續）
（荷客共御取扱可申候）
御用向ノ御方ハ（京城仁川烏致院芙江公州）中條店へ御尋被下度候

文明厨爐 下女イラズ
第二回內國製産博覽會に於て貳等賞銀牌を受領す
最近の大進步
點火の便利に加へて油差口の大進步
ホヤの改良は永久の使用に耐へ
無音有音自由の強熱
石油はガスに變じ絶對に無煙無臭
構造の完全は內外石油厨爐の覇王
飯、湯、魚肉、牛乳を煮沸等即座に辨ず 永久の保證は終始弊店の特色で多大の信用を蒙り居候
石油代僅々二三厘（詳細書送呈す）
發賣元 大阪市本町通渡邊筋角 電話東壹參三六 振替大阪三五八八 島田支店
代理店 京城本町通五丁目（電話四十五番） 釘本金物店

平壤無煙煉炭所製造
理想的德用炭 卵形無烟煉炭 蒸汽機械製造
種類 一號座敷ストーブ火鉢七輪向
二號店先ストーブ風呂釜ドストル向
並に無煙炭各種廉價販賣
京城南大門通三丁目（電話九三九番）
平壤無煙煉炭所京城支店

和洋たび物各種
新案 丸たびもた
堅牢と廉價 山まゆ織
京城本町一丁目 丸 來原商店 電話四八三番
丸 出張店 京城本町五丁目壽座入口角

新荷着
英國製 皇室御料 コンマンダー
英國製 スヰトホーム
京城本町二丁目
織居商店 自轉車部
電話四百八十番（電略オ）

入院隨意
仁川病院
院長 醫學士 由利弘
副院長 醫學得業士 長尾乙二
慈惠會醫學士 尾上早見
東京醫科大學撰科專攷 菊池徹
藥劑士 常盤光雄
電話十六番

支店開業御披露
一東京生蕎麥
今般左の處に支店を設け九月七日より開業仕候間本店同樣御贔屓の程偏に奉希上候
京城太平町二丁目（四ッ角） 更科支店 電話六九八番
京城旭町一丁目 更科本店 電話千百八番

資本金五百萬圓
神戸海上運送火災保險株式會社
出張所 京城明治町一丁目（電話一五四九）

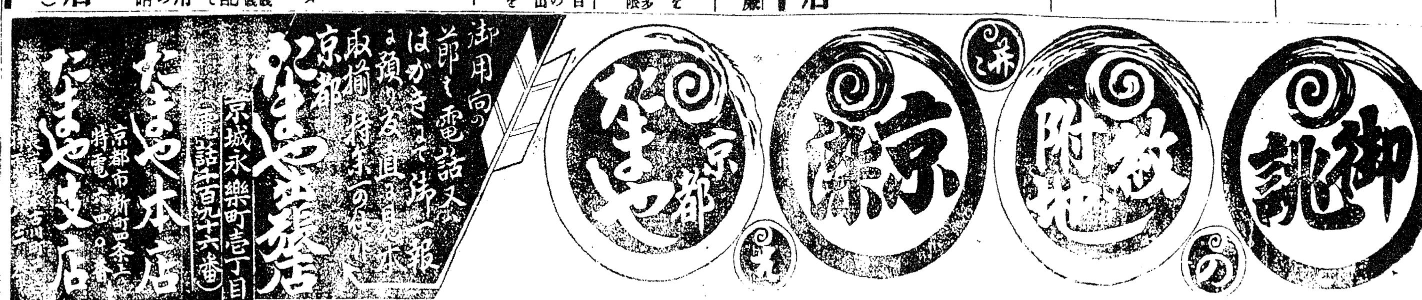
値上廣告
冷卸し清酒一樽に付金壹圓値上
右廣告仕候
京城酒商組合

米國スタンダード製松印石油
下總國野田キ印醬油
仁川日本醬油株式會社製印醬油
下總國万上印味淋
尾張名古屋印酢
汗浦根炭及日本木炭
英米煙草會社製品各種
神戸株式會社布引礦泉所製馬蹄印
豐後湯の花精製品（入浴用）
湯の花菓子（茶甲）瓶入各種
其他和洋酒、米、麥、石炭、みかん、洋臘、瓦煉瓦、明太魚、鰊昆布、簾青筵、味噌、鑵詰、千香、其他乾物類一式
特約店
日韓貿易商 京城本町六丁目 藤富國太郎本店 電話三〇八番（電略ク）

仁川製塩所
本店 仁川濱町三丁目 電話仁川八〇七
工場は有効特許式を以て完備せり一日製鹽二萬斤高多數の取引は當所に限る

仁川製塩所
出張所 京城南大門通二丁目 電話京城四七
京城に於ける販賣の便宜を計り此處に出張所を設けたり多少に不拘御用命を乞ふ

新案韓語栞 全
學部大臣李容植閣下題辭
學部次官俵孫一君序文
學部書記官隈本繁吉君序文
學部飜譯官玄櫶君校閲
普通學校教監笹山章君著
菊判總クロース金文字入美製 全壹冊 定價八十五錢 郵税八錢
本書は簡明にして理解の速からん事を主とし語法の説明、配列、分類等は日本語法の骨格に則とり發音は正確穩當にして諳讀に勞せず記臆に難からず僅日にして自由に韓語を使用し得しむるは本書の特徴なり是れ著者多年研究の結果一の新機軸を出したるものなれば實に斯界の寶函と謂ふべし請ふ本書の眞價を知られん事を
發行發賣元 京城本町三丁目 平田善太郎商店（電話一一五番）
營業案內 測量及製圖機械、學術用機械、運動具各種、模型標本類、文房具及和洋紙卸小賣
販賣所は各地書籍店にあり



臨時水害救濟會寄附金募集廣告
今回の水害は近古未曾有の慘事にして其範圍頗る廣く東京神奈川、千葉、群馬、埼玉、栃木、茨城、福島、宮城、岩手、山梨、長野、新潟、靜岡、三重、愛知、秋田、山形、鳥取等の諸府縣に渉れり此等罹災地方の人民は或は其家屋を流亡し或は父母妻子離散し衣食の窮乏を訴ふるもの其數幾十萬人の多きに上る眞に痛嘆に堪へざるなり若し之を等閑視するときは飢餓に亞ぐに病疫を以てし悲慘の狀況日々增大せんこと豈急遽之を救濟せずして可ならんや是に於てか我々有志相謀り洽く天下の同情者に訴へ寄附金を募集して以て適宜各府縣に分配し救恤の資に供せんと欲す大方の篤志家諸君希くは本會の主旨を諒し奮て此擧贊助せられんことを
明治四十三年八月
東京日比谷衆議院圖書館內 臨時水害救濟會
總裁 侯爵 松方正義
副總裁 長谷場純孝
副總裁 男爵 澁澤榮一
常務委員 益田孝 同 林田龜太郎
同 豐川良平 同 太田峰三郎
同 中野武營
會計監督 佐竹作太郎 同 根津嘉一郎
注意
一 寄附金は金一圓以上の事
一 寄附金締切は九月三十日限りとす
一 寄附金は特に特定なき地方は左記宛便宜御郵送被成下度候
東京市日比谷衆議院圖書館內 臨時水害救濟會會計監督

特約販賣自製
味噌醬油製造元 漬物問屋
京城本町五丁目
大上商店（電話二五一番）
和洋酒、印精酢、穀物麵類、銘茶、鑵詰、乾物食料雜貨、ビール、巴糀、鹽辛、日本食鹽、荒物各種特約販賣尚御望に依り商品切手調進

營業科目
和洋紙類 印刷附屬品 印刷インキ 和洋書籍 防腐デシン 穀物食鹽 諸機械類
發賣販賣
東京ランバーゾ商會代理店
東京中外アスファルト株式會社代理店
東京千代田生命保險相互會社代理店
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約
國定教科書共同販賣株式會社特約
藤田合名會社
本社 京城明治町二丁目（電話二三〇番）
出張所 東京京橋南鍋町一丁目十番地 電新橋三六九二

齒科治療
本町六丁目（蕎そば橫町）
ドクトル 中村安子
女子見習募集委細面談
（電話一五八三）